

編集後記

今年も皆様方のご協力を賜り、「環境制御」第30号を発刊できた。今年度の原稿の内容としては、総説二編(うち一編は岡山大学保健環境センター公開講演会(2007年)での講演の内容を総説風にまとめたもの)、解説一編、論文三編を掲載している。今年度は論文投稿が三編あり編集者として嬉しく思っている。さらに投稿が増えて内容が充実することを願いたい。

今年度は理学部牛窓臨海実験所の白井浩子先生に「エコロジカル・フットプリントの理解と活用を」の題で解説を寄稿していただいた。エコロジカル・フットプリント(EF)計算法は「生態系の生産」と「人間の消費」の両者を定量する方法であり、どのような規模の人間行為についても計算でき、その値を直接全体と比較できる利点がある。人間の活動による消費が地球の生態系の生産を上回ることによる環境破壊が懸念されている現在において、このEFの考え方はこれから非常に重要になると思われる。是非ご一読いただきたい。

白井先生の解説の中に「国別では、先進国の経済活動の抑制が不可欠である。」という一文がある。これは、世界中の人が現在の先進国並の生活をしようとするれば、地球1個ではとても足りないというEF計算の結果をふまえたものであるが、確かに世界中の人が例えば日本のような生活をしたら地球が破綻するだろうなという感覚は私も実感として持っているし、その文章の通りだと思う。とすると、不景気というのは経済活動が抑制されるので地球にとっては良いことになるのだろうが、逆にそのために生活できない人が出てくるため、人間にとっては悪いことになってしまう。世界中の政府はすべての自国民が健康で文化的な生活を享受できるようにする責任を有しているので、不景気をなくす政策即ち消費を増やす景気拡大策を取らざるを得ない。現在の経済体制である資本主義では、人間の豊かな生活を優先すれば地球環境が破壊され、地球環境の保護を優先すると逆に豊かに生活できない人間が出てくるため、地球環境の保護と人間の豊かな生活の両立は資本主義では不可能なのではないかという気さえしてくる。このように考えると、現在様々な分野で実施されている環境対策の他に地球環境の保護と人間の豊かな生活を両立できるような経済体制の構築が新たに必要なのではないのだろうか。白井先生の解説を読んでこのようなことを考えてしまった。

「環境制御」では、自然科学、社会科学両方を含む環境に関する幅広い内容の解説、学術論文、技術報告などを受け入れているので、投稿したい内容があれば遠慮することなく投稿していただきたい。

環境管理センター 崎田真一